

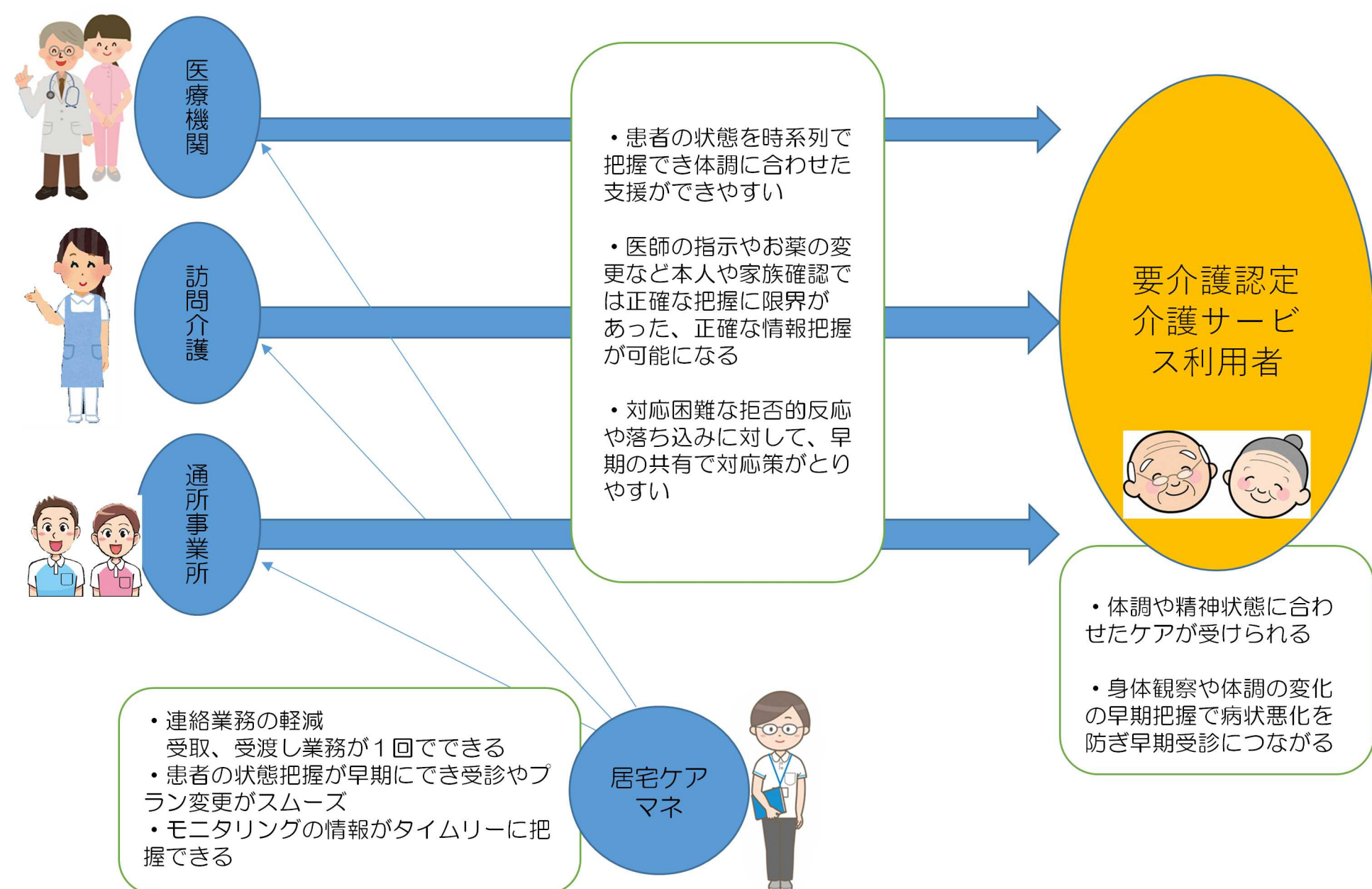
高知家@ライン活用による医療・介護連携の取組事例

(令和元年度 高知ケアラインモデル事業報告)

～ 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしたい高齢者を支えるために～

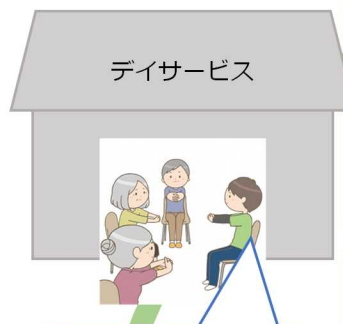
- 1 調査実施期間：令和元年12月
- 2 調査方法：訪問による聞き取り調査
- 3 調査対象：令和元年度高知家@ラインモデル事業（安芸地域）参加の医療介護関係事業所
- 4 調査概要：高知家@ラインを積極的に活用して連携に取り組んでいる17施設について、具体的な活用の取組状況、活用方法の提案、システム改善、医療介護連携のありかた等の意見を聞いた。
(内訳：医療機関4、介護事業所10、調剤薬局2、地域包括支援センター1)

高知家@ラインを活用した医療介護連携の効果



デイサービス事業所（運動中心型）からの情報発信による連携

デイサービス利用者全員をケアラインに患者登録し、動画や写真も有効に使ってデイや自宅の状況を関係者で共有することで、医療介護関係者が連携した支援を行うことができる。



対象者
デイサービス利用者全員（要支援1・2、要介護1～3）

患者登録（連携グループの作成）
・連携事業所に包括同意取得の事前連絡
・利用者から包括同意書を取得
・氏名、生年月日等基本情報を入力し、顔写真も掲載

サービス提供時などの日常の情報提供
・朝の健康チェック項目（血圧、体温、SPO₂（経皮的動脈血酸素飽和度））の入力
・朝の服薬やお迎え時の状況を入力
・必要と判断した方の運動の様子を動画に撮り共有

- 【具体的な活用内容】**
- ① 自宅で転倒骨折した方の家の状況を写真で共有
 - ② 肋骨骨折した方の運動の様子を動画で共有（骨折箇所に配慮した運動メニューで、こんな動きのときに痛みを感じる）
 - ③ 物忘れ症状が進んできた独居、要支援、ヘルパー未利用、服薬管理指導対象外の方への服薬の意識付けのため、薬を飲んだらデイに電話をしてもらって、ケアラインに入力して情報共有
 - ④ 新規利用者で自宅の出入りに支障がある方について、その様子を動画に撮って共有し、理学療法士に手すり設置位置を相談⇔改修後の写真を地域包括ケアマネが写真を撮り共有
 - ⑤ デイの血圧計を1週間貸し出して、家庭血圧をヘルパーに計測してもらって共有し、トータルな情報で医師に相談
 - ⑥ ヘルパーやデイの計画表・プランをケアラインにアップして目標を共有したうえで、できていること、できていないことを動画で撮って情報共有



・高知家@ラインを通じてデイとの関係が深まった。
・支援方針をデイと一緒に検討し、役割分担して支援。ケアマネジャーだけでなく他職種に任せることで、自分がやることは増えずに連携が図れている。
・薬がきちんと飲んでない方への支援を、診療所・薬局・地域包括だけでなく、デイにも相談して関わってもらっている。薬の写真を撮って情報共有など、ケアマネひとりじゃ悩むことなく、役割分担しながら支援している。
・服薬できてないからと、ケアマネが家を訪問しないといけないというのは違うのでは。

・デイから画像等の情報（デイ送迎時の状況、動き等）がよく入っているので、生活の問題点がわかる。外来診療時に、この情報を活用し（患者さんに返す）、診療情報をデイに返している。
・デイの場面での動きがわかることがありがたい。
・階段等のつまづきやすい箇所など、家の様子を写真で共有できるのが役立つ。
・服薬が全くできない認知症の方について、薬包に日付を入れてほしいとの薬局への依頼をケアラインで周知した。すぐに変化はなかったが、ヘルパーや包括ケアマネが確認してくれる。

・デイがケアラインに上げた動画を見て、薬の包装形態を変更した（脳血管障害による麻痺のある方に、本人が扱えない小さな薬はひとまとめの袋に、大きい錠剤はヒートで出した。日々の動作でリハビリ的な訓練になればと考える）。
・デイがケアラインに上げた計画表を見て在宅状況を確認し、訪問して服薬を指導。
・ケアラインを毎日見ることはできないが、訪問の前に見て状況を確認している。

・デイが貸し出した血圧計で家庭血圧を測定してケアラインに入力し始めた。

メリット

- ・今まで電話でやりとりしていた情報が、ケアラインにアップすることで、タイムラグもなく、グループの複数関係者で同じ情報を共有できる。
- ・写真、動画で共有することで、他職種（医師、理学療法士等）が本人に会えなくても実際の状態や在宅の状況を確認できる。
- ・診療所の処方内容や注意事項等が詳細に共有できるので、副作用が出た際にも早く対応することができた。

・入力した後に、連携先への電話連絡はしていない。
・最初から全ての項目を入力しなくてもいいと思う。
・入力する項目が少なくても自分がベースを作るので、関係者の皆さんも情報を入れて。
・自宅の様子を知りたいなど、希望を言ってくれば、もっとできることがある。
・職員全体がケアラインに入力している。
・画像や動画を使うと、文章よりも状態が伝わると思うので、積極的にカメラを使って情報提供している。

居宅介護支援事業所 ケアマネジャーからの情報発信による連携

独居・認知症の高齢者。居宅介護支援事業所のケアマネジャーを中心に、ヘルパーやデイサービスが高知家@ラインで日々の生活状況を共有することで、別世帯の介護者も含めて関係者があらかじめ作戦を考えて対応することができるようになり、サービス拒否を防ぎ安定した在宅生活維持ができています。

特別養護老人ホーム・
デイサービスの併設型

居宅介護
ケアマネ



- ・担当会合の日程をケアラインで調整（見てくれない事業者もいるが。）
- ・紙パンツに変えるタイミングをケアラインで連絡調整「〇月〇日から紙パンツに変えましょう！」



対象者

独居・認知症の高齢者
毎年冬場はデイサービスの拒否があり、状態が不安定
失禁が気になるがうまく介入できなかった



メリット

- ・認知症や独居等で日々の生活が心配な高齢者の支援に、関係者が連携して関わることができる。
- ・かかりつけ病院の看護師も「仕方ない」と感じていた方に対して、ケアラインで情報共有することにより、悪化しないよう関係者で状況を把握し、次の訪問の作戦を練って支援することができる。
- ・担当会合の日程調整にケアラインを活用すると、ケアマネジャーの負担軽減になる。



介護者（別世帯の娘）

- ・病院の受診同行やデイサービスの送り出し等をしており、自分もケアラインで情報を共有して介護に活かしたいと思う。



- ・ケアラインを活用してデイサービス利用者の生活状況を把握し、関係者と連携して支援している。



ホームヘルパー

- ・訪問時の様子を毎日ケアラインに入力して、関係者で現状を共有
- ・ケアラインの情報を、次に訪問する際の作戦に役立っている。

デイサービス事業所 生活相談員からの情報発信による連携

デイサービス利用者でよく転倒する方。デイサービスの様子を動画でケアラインにアップし、訪問看護ステーションのリハ職と情報共有することで、デイの活動内容に活かしている。

《ケアラインの活用》

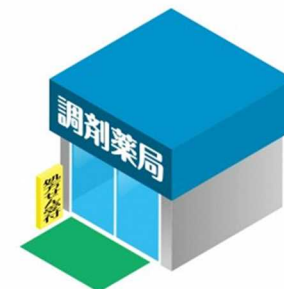
- ・デイサービスでの様子の動画をアップして訪問看護のリハ職と情報共有
- ・ケガの状態を写真でアップ



生活相談員



居宅介護
ケアマネ



対象者

デイサービス利用者でよく転倒する方



- ・かかりつけ病院や調剤薬局とケアラインでつながって助かっている。何かあったときの対応方法など、薬のことを気軽に聞けるようになった。
- ・複数のサービスが入っている方に有効。これまで支え合いノートの活用をお願いしてきたが、ケアラインは写真等データで共有できるし、タイムリーに複数の関係者が共有できるので便利。
- ・入力はプラスの業務になるが、習慣化すれば気にならない。
- ・自分は生活相談員専任だが、生活相談員と介護の兼務職員は忙しいので、ケアラインは負担になっているようだ。

《ケアライン活用以外の連携の工夫》

- ・利用者の入院時カンファレンスへの同席や、受診時等の病院情報提供をケアマネジャーにお願いして、関係者との連携をつくり情報共有に努めている。
- ・カンファレンスに同席して病状とリハビリの状況を聞き、デイサービスのメニューに活かしている。
- ・在宅の状況を知ることは有効なので、ケアマネジャーを通じて、理学療法士の自宅訪問に同行させてもらっている。その後も理学療法士とつながって相談している。

多職種がケアラインで情報共有し、認知症のご夫婦を連携して支援

夫婦とも認知症で状況が聞き取れず支援に苦慮していたかかりつけ医から、ヘルパーの情報提供の依頼があったことをきっかけにケアラインによる情報共有を開始。ご夫婦それぞれの担当ケアマネジャーも共に情報共有することで、全体の様子がわかり支援に活かせるようになった。

・関係者がケアラインを使うことで情報共有がうまくできている。
・薬の相談がしやすい。

居宅介護
ケアマネ

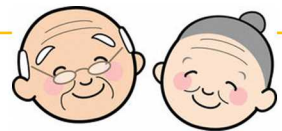


・訪問看護や訪問リハビリテーションが入るケースが増え、連携が難しくなっている。幾つもの事業所に電話連絡しないといけないので大変。
・評価月の前月くらいに、維持・向上等の状況やケアマネへの提案等をケアラインに入力してもらえたらありがたい。

ホームヘルパー



対象者
認知症の夫婦（要支援、要介護）世帯
・夫婦とも認知症のため聞き取りができず、診療所からヘルパーの情報が欲しいと求めがありケアラインによる情報共有を開始



・ご夫婦が認知症で状況が聞き取れないので、ヘルパーの情報を提供してほしい。



・薬の相談への対応

地域包括
ケアマネ



メリット

- ・担当ケアマネが異なる場合に、ケアラインを活用することで関係者がご夫婦の情報をトータルで共有できるので、連携した支援ができる。
- ・ご夫婦とも認知症のため聞き取りができなかったが、関係者で情報共有することで様子がわかり支援に活かせる。

・訪問時に状況を聞き取りケアラインに入力
・調理した料理を写真に撮って共有

※ケアラインで共有すべき情報の認識にヘルパー間で個人差があり、訪問時の聞き取り内容が異なるため、管理者が同行してケアラインに入力している状況。確認項目を決めるなどしてはどうか？

通所リハビリテーション（デイケア）からの情報発信による連携

従来やらないといけない関係者との情報共有をケアラインで置き換えて行っている。



対象者：進行性難病の診断がつきそうな方

連携先：ケアマネジャー、地域包括支援センター、薬局、病院

活用方法：

- ・褥瘡や転倒リスクが高く、傷の写真を撮って共有
- ・デイケア送迎時の状況を共有
- ・ケアマネジャーは病院受診時の医師の説明等の情報や入院期間を共有

対象者：抗がん剤治療中で嚥下機能が低下した方

連携先：言語聴覚士、ケアマネジャー、病院、医療ソーシャルワーカー

活用方法：

- ・ゼリー食しか食べられなくなり、これから次第に機能が低下するなかでも、生活の質をどれだけ上げていけるかを関係者で共有して支援

対象者：独居・要支援の方（内臓疾患、転倒リスク高い）

連携先：地域包括支援センター、薬局、透析医療機関、ホームヘルパー

活用方法：

- ・傷が絶えない方で、皮膚科受診時の情報をデイケア（作業療法士）が聞き取って共有
- ・透析医療機関の医療ソーシャルワーカーから受診のたびに検査数値や薬の情報を提供
- ・ホームヘルパーからは薬がなくなった時の情報提供

・ケアライン活用の事例を積み重ねていけば、そのうち、誰かが楽になるとわかってもらえるのでは。そのためにも、これまでワーキング等でやってこなかった中身の議論をやりましょう。

・医療介護現場は電話連絡がとれないことがある。緊急の用件でなければ、ケアラインで情報を入れ、後日電話連絡すれば、抜かることなく情報共有できる。

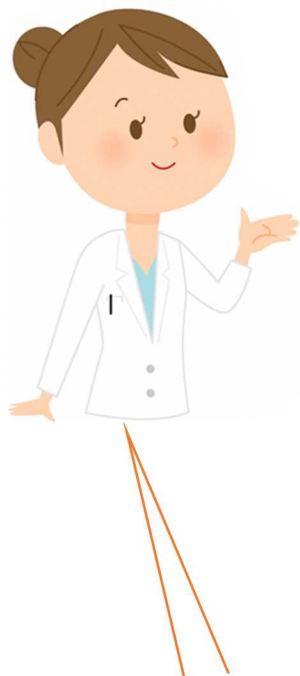
・ていねいな文章をいれないといけないの思いがあるのではと感じるが、簡潔な内容でいいと思う。

・通所事業所連絡会で、会の開催案内を連絡し、議事録を共有、会に参加できなかった人が質問する等、ケアラインの活用策を話し合った。

・支え合いノートはいいものだが、複数サービスが情報をそれぞれ書き込んでいくと、受診状況等欲しい情報を見落としがちなそう。ケアラインを使うと、緊急、通常のボタンがあるので必要な情報を見やすいし、共有のスピードも速い。

透析医療機関の医療ソーシャルワーカーの活用状況

患者さんが受診するたびに受診状況等を入力することからスタートし、中間報告会で参加者の意見を聞いた後からは、変わったことがあれば入力するようにしている。



対象者：独居・要支援の方（保存期（ステージ5）、パーキンソン病）

連携先：地域包括支援センターのケアマネジャー、デイサービス、薬局、ホームヘルパー

活用方法：

- ・転倒しやすい方なので、ケガの様子を写真で確認しデイサービスに情報提供
- ・地域包括支援センターから、他医療機関の退院後情報提供書が画像で提供されるので、外来受診時に医師に見せている。
- ・ケアラインに参加していない薬局の情報を地域包括支援センター入力してくれており、他医療機関の処方情報（湿布薬）を共有できてありがたい。
- ・ケアラインで連携している薬局から薬の効能の説明をしてくれた。

対象者：要支援の方（保存期（ステージ5））

連携先：地域包括支援センターのケアマネジャー、デイサービス、薬局

活用方法：

- ・デイサービスから皮膚科情報の提供がある。

対象者：要介護の透析患者

連携先：地域包括支援センターのケアマネジャー、デイサービス、ホームヘルパー

活用方法：

- ・H30豪雨の際、避難情報を入力した。

- ・他の医療機関で処方された薬の情報があると便利
- ・ケアラインは、多職種で日々情報交換が必要な方に有効
- ・災害時に活用できると思う
- ・パスワードの入力が手間。変更できると聞いたが、それも手間
- ・入力しても、連携している事業所が見ていない。確認がないと電話連絡が必要になる。
- ・医療ソーシャルワーカーはケアライン操作の時間をつくれるが、ケアマネジャーや訪問看護は難しいと思う。

診療所（無床）の活用状況

【取組例 1】



- ・医師がケアラインを見る時間はないので、看護師がバイタルや日々の状況等をケアラインから抽出して診察時に利用している。
- ・神経難病の患者さんの支援のため、ケアマネジャーや関係機関とケアラインで情報共有した。
- ・診療所で、独自のチェックシートを作成して活用。急性心不全のしおり等をヘルパーなど介護職員のチェックシートとして配布した。
- ・次のケア計画などを職員全員で共有するようにしている。

メリット

- ・複数の事業所に一括で連絡できるし、過去のデータも参照できる。
- ・バイタルや在宅の写真を共有することで、患者の日々の状況や変化がわかる。
- ・患者の日々の状況や変化を把握できるのは強み
- ・今まで関わりがなかった介護事業所ともケアラインでつながることができた。

【取組例 2】



- ・医師がケアラインを使うのは無理なので、看護師が情報を確認している。問題がある患者さんの情報を往診の道中等で共有し、話し合うことができる。

- ・デイから画像等の情報（デイ送迎時の状況、動き等）がよく入っているので、生活の問題点がわかる。外来診療時に、この情報を活用し（患者さんに返す）、診療情報をデイに返している。
- ・デイの場面での動きがわかることがありがたい。
- ・階段等のつまづきやすい箇所など、家の様子を写真で共有できるのが役立つ。
- ・服薬が全くできない認知症の方について、薬包に日付を入れてほしいとの薬局への依頼をケアラインで周知した。すぐに変化はなかったが、ヘルパーや包括ケアマネが確認してくれる。

・ターミナルの患者さんは迅速な対応が必要なので、ケアラインはいまひとつだと思った。電話の方が早い。

- ・難病の患者さんにはケアラインが使えると思う。以前、脊髄小脳変性症の患者さんに関わったが、その時にケアラインがあったら使えたのでは。
- ・ケースの振り返りの時に、ケアラインのような記録があった方が学びとして使える。

調剤薬局の活用状況

【取組例 1】



・毎朝、ケアラインを開き、新しい情報(主に連絡票を確認)を印刷してカルテにはさみ、必要な情報を薬剤師に伝えている。



事務職員

・投薬後、ケアラインで共有したい情報を下書きして事務職員に入力してもらっている。
・お薬手帳に貼付する処方シールを写真に撮り、ケアラインにアップしている。



薬剤師

メリット

・ケアラインに参加することで、患者さんの背景が見えるようになった。

・在宅対応できるが、今のところ要請がない。

・ケアラインで何をすれば関係者に喜んでもらえるのかわからない。

【取組例 2】



薬剤師

・デイがケアラインに上げた動画を見て、薬の包装形態を変更した(脳血管障害による麻痺のある方に、本人が扱えない小さな薬はひとまとめの袋に、大きい錠剤はヒートで出した。日々の動作でリハ的な訓練になればと考えて)。
・デイがケアラインに上げた計画表を見て在宅状況を確認し、訪問して服薬を指導。
・ケアラインを毎日見ることはできないが、訪問の前に見て状況を確認している。

メリット

・動画で共有してもらうことで、麻痺の状態等患者さんに合わせた対応の工夫が可能となる。

・デイが計画表を共有してくれるので、訪問の段取りがしやすい。

・健康保険証や介護認定証の写真をケアラインにアップしてくれたらありがたい。(家族が来る場合に、持ってこないことがある。)

・とにかくたくさん情報を入れて共有すればいい。

・私が情報共有することで、少しでも(ケアライン)のハードルを下げればいいと思う。

・訪問薬剤管理指導料等の算定要件を満たさない場合も訪問することがあるが、自分が把握した情報をケアラインで共有できることでメリットがあると思う。

訪問看護ステーションの活用状況

ケガの状態等を写真で共有するほか、必要な情報をケアラインで共有することで、服薬や身体管理ができています。



対象者：転倒リスクが高い方など6～7名

連携先：ケアマネジャー、医療機関

活用方法：

- ・浮腫やケガの状態を写真で共有
- ・ヘルパーと訪問看護とで相談して、必要な情報をケアマネジャーに伝える。
- ・排便コントロールできてない方の状況を写真で共有
- ・ケアラインはタイムラグがあるため、役割分担の際にはまず電話で調整した上で、ケアラインに入れている。

・ケガ等は、口頭より写真の方が状態が伝わる。

・ケアラインに慣れるまでは二度手間だったが、今はケアラインに入れた後、電話をしている。

・同一法人の訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所、医療機関がケアラインで連携するためにモデル事業に参加した。取り組む中で、訪問看護ステーションが医療機関に口頭確認等を行い総括して医療情報として入力している。

居宅介護支援事業所の活用状況



【取組例 1】

対象者：重症の方、難病の方

連携先：医療機関、薬局、訪問看護ステーション

活用方法：家族が理解不足なので、医療機関で確認したことをケアマネジャーが入力

- ・通所、訪問看護事業所はほとんど入力なし
- ・看取りは状態が変化するのでタイムリーなやりとりが必要なので、携帯で連絡を取り合っている。（夜中でも連絡が入る。）
- ・複数の訪問介護事業所が入っているケースにはケアラインによる情報共有が有効かもしれない。
- ・難病など進行性の疾患にはケアラインが必要
- ・サービス担当者会で活用できる
- ・支え合いノートをケアラインに移行できれば良い。
- ・働き手不足の中、業務のプラスアルファにならない活用方法にすることが必要
- ・関係者が日ごろの業務で負担になっていることを出し合って、そこにケアラインを活用できないか一緒に考える。
- ・音声入力の周知
- ・皆がメリットと感じるのは医療情報
- ・ヘルパーやデイサービスの空き状況が確認できれば有効では

【取組例 2】

対象者：難病・要介護5の方など

連携先：医療機関、訪問看護、訪問リハビリテーション、薬局、訪問看護ステーション

活用方法：

- ・複数関係機関との情報共有をケアマネジャーが動いて行っていたものを、ケアラインを活用して効率化が図られた。
- ・主な連絡先、医療情報（かかりつけ医、主病名、処方内容）、文書管理（看護情報提供書、難病訪問診療情報、定期診察報告、ケース会）、カレンダー（定期受診、ショートステイ等利用日時）、連絡票（各種サービスからバイタル等の状態報告、皮膚状態や車椅子での姿勢保持等の写真）等の情報をケアラインで共有
- ・介護保険負担割合証を写真に撮って共有
- ・ポジショニングの確認や助言を得るために、横臥状態写真と補足説明を連絡票に入力

・ケアライン活用前はケアマネジャーが複数の関係機関に情報共有のため出向いていたので負担が大きかったが、ケアライン活用により効率化が図られた。ひとつの事業所の情報発信により、複数の関係機関が同時に正確な情報を受け取ることができるようになった。